

八ヶ岳：硫黄岳，赤岳，阿弥陀岳

◆日程 2019年1月12日(土)～14日(月)

◆メンバー L：岡村、佐藤俊、前田、大塚

最初は赤岳，横岳，硫黄岳と縦走することも考えたが，少し難しそうなので，赤岳・阿弥陀岳とした。行ってみたら，天気は最高で，とても楽しめた山行だった。

1月12日(土) 天候：晴れのち雪

早朝岡村 L に車にて大塚，佐藤さんの順にピックアップして頂き登山口駐車場へ向かった。渋滞なし。初日は行程が長いので直ちに準備を整え，出発。マイカーが入れる最奥地である美濃戸山荘まで勾配が緩やかな林道歩き。ここから南沢沿いの登山道で，急登は無いものの，重い荷物を担いでの歩行はこたえる。それでも先頭を交代しながら，何とか標準コースタイムで行者小屋に到達できた。直ちにテント設営し，アタックの準備に取り掛かった。

アイゼンを装着し，最小限の荷物で硫黄岳(2760m)を目指して出発。赤岳鉱泉を過ぎたところで，つり気味だった佐藤さんの脚の痛みが強くなってしまった。翌日の赤岳登頂に備え，佐藤さん単独でテントに戻ることに。岡村 L と大塚二人はそのまま山頂を目指す。空荷とはいえ，日暮れ前のテント帰還を果たすためにはペースを上げる必要がある。歩荷で疲れた脚での急登を何とかこなすと突如視界が開け，見晴らしの良い稜線に躍り出た。辿り着いた頂上からは赤岳，阿弥陀岳を一望でき，長い一日の疲れを癒してくれた。日が傾き，雲も出てきたため下山を急いだ。道中，冬合宿で負った軽度凍傷の悪化を懸念したが，メンバー皆さんの心配りを始め，冬合宿時よりも高い気温，手袋の内側にカイロを貼り付け，手指をよく動かすといった対策で事なきを得た。

戻ると後発の前田さんが既にテントに到着していて，佐藤さんと共に寛いでいた模様。温かいお茶を頂いた後，夕飯の準備に取り掛かった。今回初めての食事当番であったこと，私以外のメンバーはベテラン揃いであったことから，誰でも出来るが少し変わったメニューを志向してみた(下記洋食2品)。材料が少々重かったが，思いのほか好評を頂き嬉しかった。8時消灯。

1品目(チリビーンズ)・・・オリーブ油を敷いて加熱した鍋でひき肉300gを炒め，キドニービーンズ1パック，玉ねぎ1個分のみじん切りを順次投入加熱し，ケイジャンスパイスで味を調べて仕上がり。ビールの共として頂いた。

2品目(ミネストローネ風スープパスタ)・・・湯にイタリア製ショートパスタ150gと塩を投入。5分後，乱切りした人参1本，ジャガイモ1個，玉ねぎ1個に，ポークウィンナーをまとめて投入して加熱。次いでカットトマト1パックとガーリックスープの素2個を投入し，パスタの芯が無くなるまで茹でて完成。人参は芯が残ったので，薄切りにする方がベター。持参した赤ワインで乾杯した。

(記：大塚)

CT：美濃戸口駐車場 7:50 - 美濃戸山荘 8:50 - 行者小屋 11:00/12:20

- (以下アタック) 赤岳鉱泉 12:50 - 赤岩ノ頭 14:15 - 硫黄岳 14:40 - 赤岩ノ頭

- 赤岳鉱 15:40 - 行者小屋 16:25



1月13日(日) 天候：快晴

朝5時起床、外に出した凍ったザックの雪払い、身支度、そして朝食の塩ラーメンと次々に準備を整え、7時少し前に出発した、最初の目標は赤岳だ。地藏尾根に取り付くと半分雪に埋まった階段を上る、露岩を登り稜線に出た、阿弥陀岳が見えるがその途中に山がある、中岳だ、赤岳を下ってから急登、下降しなくてはならない、自分に行けるのか不安がよぎった。1枚多く着込んだので寒く無かったがこの頃には汗をかいていた。赤岳展望荘で休憩を取ってから雪のついた岩稜を歩く、空がどこまでも青い、快晴だ。赤岳山頂に到着した、雲海から富士山が見える、アルプスと名の付く山々が全て見晴らせる素晴らしい眺め。山頂からの下降ルートがよく見えない、崖を慎重に下る、広いコルに出ると正面に三角形の中岳が立ちはだかる、帰りもここを降りて登り返すと思うと心が折れる、中岳を登り素っ気ないピークに立つが、ほぼスルー、阿弥陀のコルまで楽な下り(後で登り返すのだが)、阿弥陀岳も急登だ、雪と岩と鉄はしごの連続、山頂に到着すると南八ヶ岳が全て見渡せる、今日は天気がいいし日も暖かい、しばらくゴロ寝する。下山開始、赤岳を登り返す(その前に中岳を登り返すが)、文三郎尾根の分岐までが長かった、登って息を整え、また昇る感じだ。暖かくなり雪がアイゼンに張り付く頃、ようやく文三郎尾根の下降となった、下降してテント場に着くと営業中の行者小屋に入り缶ビールで祝杯、美味しい。しばらくまったり休憩して、テントに帰り夕飯を作った、今夜はプテチゲだ、山小屋で真澄を調達して(前田さんご馳走様です) 2次会開始、今夜も暖かく眠れました。



見える、アルプスと名の付く山々が全て見晴らせる素晴らしい眺め。山頂からの下降ルートがよく見えない、崖を慎重に下る、広いコルに出ると正面に三角形の中岳が立ちはだかる、帰りもここを降りて登り返すと思うと心が折れる、中岳を登り素っ気ないピークに立つが、ほぼスルー、阿弥陀のコルまで楽な下り(後で登り返すのだが)、阿弥陀岳も急登だ、雪と岩と鉄はしごの連続、山頂に到着すると南八ヶ岳が全て見渡せる、今日は天気がいいし日も暖かい、しばらくゴロ寝する。下山開始、赤岳を登り返す(その前に中岳を登り返すが)、文三郎尾根の分岐までが長かった、登って息を整え、また昇る感じだ。暖かくなり雪がアイゼンに張り付く頃、ようやく文三郎尾根の下降となった、下降してテント場に着くと営業中の行者小屋に入り缶ビールで祝杯、美味しい。しばらくまったり休憩して、テントに帰り夕飯を作った、今夜はプテチゲだ、山小屋で真澄を調達して(前田さんご馳走様です) 2次会開始、今夜も暖かく眠れました。

(記：佐藤俊)

CT：行者小屋 6:50 - 地藏頭 7:55 - 赤岳展望荘 8:00/8:25 - 赤岳山頂 9:05/
9:30 - 赤岳中岳の中間 10:10 - 中岳山頂 10:25 - 阿弥陀岳山頂 11:35/12:05

1月14日(月) 天候：晴れ

就寝時、テント内は前日よりも冷えている。テント内の結露がゴアのシュラフカバーを通じて冷えを感じる。時折上から雫も落ちてくる。やはり端は寒い。それでも睡眠は十分とれた。5時頃起床し、微妙に冷えた体にストーブで暖をとる。暖かい。と同時に食事の準備となる。朝の食当は佐藤シェフ。「これぞ日本の朝食」という感じのメニュー。白米にみそ汁。お好みで塩昆布、ごま塩、お茶漬けをトッピング。食後のコーヒーサービス付きである。少し塩のきいたご飯が疲れた体をいたわってくれる。

最終日の行動はテントを回収し、行者小屋から美濃戸登山口まで降りるだけである。行動予定時間2時間位である。あえていうと、昨日のうちに下山可能であったが、ゆっくり宴会がしたいが為に延泊したようなものである。

登山道も凍っている箇所さえ気を付ければ軽やかな道である。唯一の懸念は、あまりに早い時間の下山のために、開店している温泉施設があるかであった。しかし、そのような心配は必要なかった。8キロほど移動し「尖石温泉縄文の湯」で3日分の疲れを癒す。風呂上がりのコーラも炭酸ののどごしが格別である。でも本当はビールなら最高だったかな。

今回の山行は、雪も少なく、風も微風程度、気温も寒すぎることなく、3日間ほぼ快晴。このように条件が良かったのは、普段の私の行いが良いからということはいうまでもないだろう。

(記：前田)

CT：行者小屋 6:45 - 美濃戸山荘 8:35

